

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

逆瀬川晴斗（九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻）

今回、私はこの中東☆イスラーム教育セミナーに初めて参加させていただきました。今年是对面とオンラインのハイブリッドという形式での開催とのことで、私は全4日間、東京外国語大学の会場のほうで参加いたしました。このような貴重な機会を頂けましたこと、誠に感謝申し上げます。以下に感想を記させていただきますが、これが次回以降参加を検討されている方々への参考になれば幸いです。

セミナーでは、多くの先生方の貴重なお話を聞くことができました。お話いただいた研究の内容は勿論非常に面白く、興味深いものでしたが、より基本的な部分である研究への取り組み方、あるいは先生方のこれまでの生き方を多く伺えたことが、とりわけ有意義なものであったと感じています。特に、これから研究を行っていくにあたり、“So What?”と問い続けることは意識していこうと思いました。受講生発表につきましても、同世代の方々がどのような研究をしていて、如何に諸問題に向き合われているかということを感じることができ、平時では得難い類の刺激を受けることができました。

また、先生方や学生の方々と直接お会いすることができたのは、非常に良かったと感じました。世情が世情ですので、人と直接話す機会そのものが減りつつある中、休憩時間や帰り道などで、参加者の方々とセミナーの内容だけにとどまらない様々なお話ができたことは、貴重な経験だったと思います。

御恥ずかしいことではございますが、正直に申し上げて、今回のプログラムを初めて確認した時は、自らの関心のある分野とは異なるものが多く、対面参加で得られるものはそこまで多くないと思っていました。しかし、実際に4日間参加してみて、その認識を改めるとともに、己の視野の狭さを痛感いたしました。専門とは異なる諸分野の話であっても、研究に対する姿勢や発表手法といった諸事に通底するものがあり、それらを学ぶことができました。また、諸分野特有の問題に対するアプローチの方法論や分析手段といった、一見自らの専門のそれとは大きく異なるような点からも、思考のきっかけを掴むことができたり、視野を広げることにつながったりと、得られるものは大きかったです。また、利便性や柔軟性という点ではオンラインに劣るかもしれませんが、やはり対面の情報量は多く、参加者の方々と気軽に言葉を交わせる等の利点が多々あり、そういった意味でも、東京まで足を運ぶ価値があるものと感じました。そのため、老婆心ながら申し上げますが、次回以降参加を検討されている方は、積極的に参加するとともに、会場へ足を運ばれることをお勧めいたします。

最後になりますが、このような貴重な場を設けてくださった先生方やスタッフの方々には、厚く御礼申し上げます。